

2025年8月28日  
株式会社エヌジェイホールディングス

2025年6月期決算説明会 主な質疑応答の要旨

質問1. 赤字脱却とは言え利益はまだ小さいなかで、正常化されるとどれぐらいの営業利益率が期待できると考えているか。

過去からの改善や足元対策の案件確保などでまだ回復は途上である。正常化した営業利益率としては5%と考えている。

質問2. 正常化のその先に関して営業利益率はどれくらいまで高められそうか。

受託開発が主である状況では、利益率は大きくは変わらない。そのため、中期経営計画（以下、中計）にあるように自社IPの創出とともに、生産性と品質の向上を合わせて行くことが重要だと考えているが、短期的ではなく、中長期な取り組みが必要な課題だと考えている。

質問3. 事業領域の観点から考えていることはありますか。

新たな事業の探索については中計にも記載しているとおりであるが、一方で当社が有しているゲーム事業の人的資本の価値は小さくないと考えている。これを活かして、先ほどの中計の自社IP創出といった取り組みを推進していく。

質問4. 中計の営業利益4億円は売上高から見ると低いように思われるがどのように考えているか。

過去からの改善及び正常化を果たしていくなかで、少なくとも到達すべき数値と考えている。

質問5. シンジケートローンについて短期の期限がくると思うが、どのような状況か。

財務制限条項のある借入については開示事項として定められたため、明確なお答えは差し控えたいが、当期も黒字着地ができたため、継続に特段の問題はないと考えており、折り返しに向けて協議をしております。

質問6. バランスシートの観点からもご説明をいただきたい。例えば、のれんや資金面などについて、現預金残は事業規模に対して少ないように感じるがどうか。

のれんは、過去に減損があったが、順調に償却が進んでいく予定である。期末の現預金残は少ないように見えるが、開発に伴う入出金のタイミングの関係であり、実際はそこまでではない。ただ、そのような変動も踏まえて、もっと厚くしていく必要は認識している。

質問7. 業績予想の営業利益1億円を下回った要因について教えていただきたい。

第4四半期に計画していた新規開発案件の開始時期が来期にずれ込んだことや、自社開発・発売タイトルについて、概ね計画どおりの売れ行きとなったタイトルがあった一方で、販売計画を下回ったタイトルもあったことが原因です。

質問8. 中計の2年目は連結営業利益2億円を計画されているが、業績予想は150百万円で、50百万円下回っている。この減少の理由と、最終年度の目標について確認したい。

業績予想は、一定の合理的な仮定を置いたなかで算出しているものであり、目指すべき目標とは差が生じることがあるが、中計の修正が必要なほどの差ではないと思っている。目標としては、変わらず2億円を目指しております。

最終年度の4億円については、現時点では変更は予定していない。ゲーム事業の持つ人的資源のポテンシャルが発揮できれば、達成できる射程内の数字であると考えている。

(注) 当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。